



2012年から被災地での買い物支援として始まった、いわて生協の移動店舗「にこちゃん号」。仮設住宅に住む高齢者などにとって、にこちゃん号は生活に欠かせない存在となっています。5月16日、陸前高田・大船渡地区を巡る移動店舗に同行しました。

利用者の皆さん一人ひとりの会話を大切にしています。

「買い物不方便」の 声にこえて

いわて生協の移動店舗「にこちゃん号」の運行が始まったのは2012年6月。東日本大震災の影響で仮設住宅に入居している方々の「近くにスーパーがなくて、買物が不便」という声にこえて始まりました。

にこちゃん号は、宮古市、大槌町、釜石市、陸前高田市、大船渡市の5市町58カ所の3,887戸の仮設住宅を対象に、合計4台が運行しています。それぞれの地域に月・水・金曜日コースと火・木・土曜日コースを設定し、週3回のペースで仮設住宅を訪れています。一日の利用者は300人を超えます。

12年から現在まで運営に関わっている店舗運営支援部・移動店舗担当の関村 剛せきむら つよしさんは、にこちゃん号についてこう話します。

「にこちゃん号は、組合員さんの力の大きさを感じる取り組みです。コースの選定や仮設住宅にお住まいの方々への移動店舗開始のご案内、試食の準備や提供など、さまざまな場面で多くの組合員さんにご協力いただいています。

にこちゃん号に積んでいる商品は

仮設住宅へ笑顔を届ける にこちゃん号

いわて生協



にこちゃん号と生鮮品を運ぶ小型トラックがベアになって運行しています。移動店舗での販売を担当している職員の皆さん。左から高橋ひろみさん、平山年光さん、今野由紀子さん。



店舗運営支援部
移動店舗担当 関村 剛さん

約600アイテム。利用者の皆さんが希望する商品が売り切れてしまうこともありませんが、コミュニケーションを取ってご要望を伺い、次の販売日には希望の商品をお持ちしています。あまり外出しない人も、にこちゃん号での買い物の際に近所の方と話すことが多いので、地域のコミュニティづくりにも一役買っていると感じています」

名前で呼び合い 信頼関係を築く

「いわて生協の移動販売ですよ！いらつしゃいませー！」

陸前高田・大船渡地域のにこちゃん号を担当する職員3人の元気な声に、利用者（組合員）の皆さんが集まってきました。この日最初に



果物は試食用意しておすすめ。「おいしいね」と会話も弾んでいました。

訪問したのは、大船渡市の仮設住宅の中で最も多くの人びとが暮らす猪川町の長洞仮設住宅です。

「〇〇さん、最近体調はどうですか？」と職員が話し掛けると、普段の生活で困っていること、最近染しかつたことなどに話題が広がっていきます。

「親しみを感じてほしくて、利用者の皆さんをお名前で呼んでいるんです。話が弾みますよ」と教えてくれたのは、組合員の不便さを軽減するお手伝いがしたいと移動店舗の担当になった今野由紀子さん。移動店舗を担当する職員は利用者と同様に名前を呼ぶことが多いそうです。

高齢の利用者に寄り添うことができるのも、にこちゃん号の特徴の一つ。職員は購入された商品を部屋まで運んだり、仮設住宅の入居者の支援活動に取り組みNPOの担当者と情報交換をしながら、足の悪い高齢者のお宅に注文を聞きに行ったりしています。

利用者の女性は「ここは高台だから、坂の下にあるスーパーに行くのが大変。家の近くまで来てくれるし、みんなのお話も楽しいから毎回利用してるの。本当にうれしいわ」と笑顔で話していました。

被災地の新たな動きも 見据えた活動を

仮設住宅に住む高齢者の生活に欠かせない存在となっているにこちゃん号ですが、被災地の新たな動きに対応することが求められています。

「復興公営住宅に引っ越しするか、そっちにも来てくれない？」というご要望が増えているんです。復興公営住宅の近くも買い物ができる場が少ないと聞いていますので、こういったニーズは今後もっと増えていくと思います」（関村さん）。

今回訪れた800人規模の仮設住宅でも、この一年で約2割の人が復興公営住宅へ引っ越ししていきました。

いわて生協では、このような被災地の事情に合わせて、にこちゃん号の運行コースに復興公営住宅を盛り込むことも検討していく予定です。

震災の悲しく暗いイメージをなくしていきたいという組合員・従業員の気持ちから名付けられた「にこちゃん号」。仮設住宅へ笑顔を届けようと、今日も走り続けています。

商品の供給だけでなく、 地域のコミュニティづくりも担う

常務理事 店舗事業管掌
阿部慎二さん



いわて生協では、「被災者の心のケア」「生業づくり」「買い物支援」の3点を復興支援の大きな柱としています。買い物支援では、移動店舗にこちゃん号や、仮設住宅から宮古市内の店舗までの無料お買い物バスの運行、共同購入（宅配）では個配の配達手数料を優遇する「復興支援サービス」に取り組んできました。

にこちゃん号の運行は、全国の生協の組合員・従業員の募金で実現し、今も継続できています。にこちゃん号をはじめ、全国の支援には、生協のネットワークの素晴らしさを感じました。利用者の皆さんの「話すのが楽しい」「外に出るきっかけになる」という声は、にこちゃん号が商品を供給するだけでなく、地域のコミュニティづくりの役割も担っていることを表していると思います。

被災地の復興が進み、状況も日々変化しています。にこちゃん号も半年ごとにコースの見直しなどを行ない、利用者の皆さんが不自由な思いをせずに買い物ができるよう支援を続けていきます。

※ 東日本大震災での被災者向け住宅として、比較的低廉な家賃で入居できる公営住宅。